



1. 霊山神社では2年ぶりに舞を披露 /2. 霊山トレッキングで新緑を楽しむ /3. 箱崎の獅子舞は昨年に引き続き規模を縮小して舞が奉納された /4. 市内の森林公園はのびのびとキャンプを楽しむ家族連れの姿が見られた

## 「コロナ禍のゴールデンウィーク」

肌寒くあいにくの雨模様の4月29日、霊山神社の春季例大祭が同神社で行われ、680年以上続くといわれる市指定無形民俗文化財の<sup>らんじょうぶがく</sup>濫觴武楽（濫觴の舞）が奉納されました。黒袴姿に白鉢巻きにたすきかけで身を包んだ隊員が笛や太鼓の音に合わせて、雨を切り裂くように空へと刀をまっすぐかざす剣舞を披露しました。昨年に引き続き感染症対策をしながらの連休となりましたが、登山やキャンプなど、楽しみ方を見つけて過ごした様子でした。

### 市長コラム



#### 第33回 梁川オープンスペース「やなピア」誕生

去る5月6日、伊達市役所旧梁川分庁舎の2階に、市民が気軽に集い、学び、語らえる場所として、梁川オープンスペース：愛称「やなピア」が開所しました（今月号で紹介しています）。以前まで市役所の執務室であったとは思えない洗練された空間が広がり、木質感と解放感に溢れ、同時にレトロな雰囲気味わえる非日常的空間となりました。設計・施工に携わっていただいた関係者の皆さまに心から感謝します。

阿武隈急行梁川駅前という好立地にあり、歴史のまち梁川のまちなか回遊の拠点としての利用も期待しています。市民はもとより市外の方にもご来訪いただき、伊達市の魅力を感じてほしいと思います。

ところで、「やなピア」のピアには仲間という意味があります。仲間同士が集い、交流を育む夢のある場所、「やながわのユートピア」となってほしいとの思いが込められており、全国に公募し決定しました。

「やなピア」には、「くつろぎ、学習、交流」の3つのスペースがあります。壁ではなく空間でつながりを持たせることにより、来場者のアイデアと発想で各

スペースを自由に利用できるように配慮しています。

そして、特に紹介したいのが図書ライブラリーです。銀座 蔦屋書店のコンシェルジュがセレクトした図書<sup>つたや</sup>を自由に読むことができます。「人生のしるしとなる一冊」をテーマに選ばれており、思い出となる本との出会いが必ずあると思います。

また、コロナ禍により人々の働き方も大きく変わり、テレワークによる在宅勤務が増えることも想定されますが、作業スペースの確保やオン・オフの切り替えなどが難しいと聞きます。こうした課題にも「やなピア」の新たな空間が、職場でもない、自宅でもない、第三のワーキングスペースとしての空間を提供してくれます。

近年、「居場所」という言葉がよく聞かれるようになりました。忙しい現代社会の中で、人が心を休めたり、リラックスしたりできる場所が少なくなっているのだと思います。そうした中で「やなピア」が、訪れた人にとって～落ち着いて過ごせる自分だけの“居場所”～になることを願っています。

須田博行